

未来へ導くチカラ
Power of leading you to future.

第44期 報告書

2012年4月1日～2013年3月31日

SAISON
INFORMATION
SYSTEMS
CO.,LTD.

株式会社 セゾン情報システムズ

証券コード：9640

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
また、平素より当社の経営に多大なるご協力とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに第44期（2012年4月1日～2013年3月31日）の業績と中期経営計画の進捗状況についてご報告申し上げます。

2013年6月

代表取締役社長 宮野 隆



■ 当期の業績と中期経営計画の進捗状況についてお聞かせください。

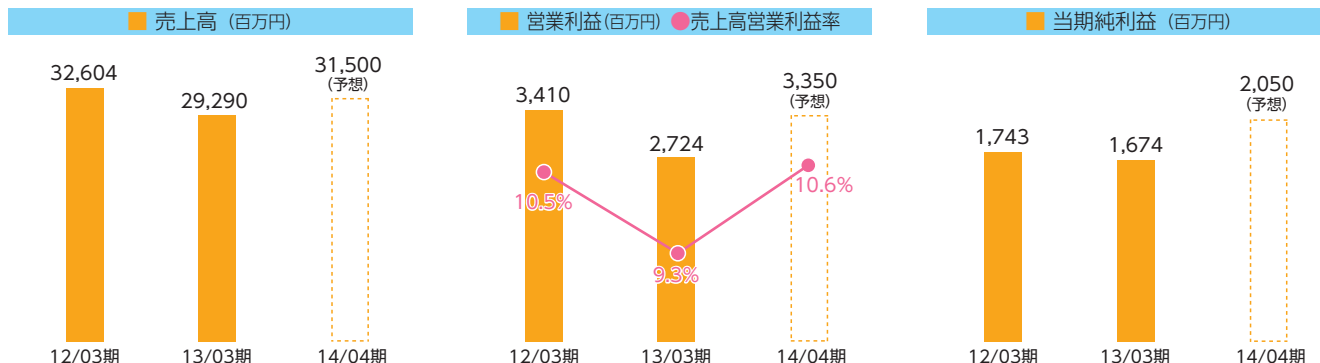
企業のIT投資への慎重な姿勢は依然として継続しており、当社を取り巻く経営環境は非常に厳しいものとなりました。

こうした経営環境にあって、中期経営計画2年目を迎えた当期は「緩みなき成長」をテーマに据えました。情報処理サービス、システム開発、パッケージ販売の3分野をバランスよく展開する事業特性を活かして事業間のシナジーを高めるとともに、生産性および品質の向上、新データセンターを活用したビジネスの推進、既存顧客

との取引拡大、新規顧客の獲得に努め、新規顧客数が80社を超えるなど一定の成果は出ました。しかしながら、経年の増収増益基調によって生まれた「緩み」を払拭しきれず、さまざまな施策を講じたものの「道半ば」で終えた1年となりました。

こうした事業活動の結果、当期における連結売上高は29,290百万円、営業利益は2,724百万円、当期純利益は1,674百万円の減収減益となりました。

株主の皆様のご期待に沿うことができず、また私が社長に就任して以来最も不本意な業績となり、早急に立直しを図りたいと考えています。



当期のポイント

中期経営計画に対して 一定の成果は上がった

データセンター移転の完了、新規顧客開拓目標件数の達成など、計画に対して一定の成果

業績は減収減益

経年の増収増益基調によって生まれた「緩み」を払拭しきれず、道半ばにある

成長への布石

HULFT事業の強化のため、アプレッソ社の株式を取得。新マーケットの開拓を推進

中期経営計画の達成に向け、2014年3月期に注力 する取り組みについてお聞かせください。

全体としては、これまで培ってきた顧客開拓力に加え、情報収集力、提案力を高めることで、ストックビジネスの拡充強化や各種サービスのクロスセルを実現し、受注額を拡大させていきます。

なかでもBPO[※]事業では、2012年10月に新潟BPOセンターの運営を変えたほか、今後の事業展開の基盤となる次期「Bulas[※]（ビューラス）」の設計・開発に着手しました。年内に新たな基盤の再構築を完成させ、生産性、品質の改善、サービスレベルの向上を図ります。

また、HULFT[※]事業においては2013年3月29日付けでデータ連携パッケージソフトウェアの開発・販売・サポートを手がける株式会社アプレッソと資本提携しました。これにより広範な業種・業態のお客様に向けて開発効率・生産性の向上、コスト削減に貢献するデータ連携ソリューションの提供を強化していくほか、開発支援ツールを活用した生産性の向上、新マーケットの開拓にも着手していく計画です。

※BPOは、企業内の業務を代行するサービスです。当社では人事関連業務を受託しています。

※「Bulas」はBPO事業で提供している給与計算や勤怠管理のサービスです。

※「HULFT」は当社のファイル転送パッケージ製品です。

→P14の用語解説をご覧ください。

株主の皆様へメッセージをお願いします。

当社が提供するサービスはそれぞれの市場で一定の評価を得ているものの、2014年3月期においてはさらに高い存在価値を示し、競争力を向上させていくことが不可欠です。中期経営計画のビジョン「存在価値の高い企業へ」を実現するためにも、従業員一人ひとりの能力・価値を上げることが必要であると考え、原則として全技術者の基本情報処理技術者試験100%合格を共有目標に定めています。また、次世代を担う幹部の育成を進め、組織強化とマネジメント強化を図りながら、着実に「存在価値の向上」を進めていく所存です。

なお、減収減益という結果となりましたが、配当につきましては当初予定通り中間配当金10円、期末配当金25円の年間35円とさせていただきます。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	期別 当期末 (2013年3月31日現在)	前期末 (2012年3月31日現在)
資産の部		
流動資産	13,845	15,235
現金及び預金	7,489	5,351
受取手形及び売掛金	4,769	6,983
有価証券	299	649
仕掛品	221	1,012
その他	1,067	1,240
固定資産	11,221	11,271
有形固定資産	3,675	3,839
無形固定資産	4,328	3,667
投資その他の資産	3,216	3,763
資産合計	25,066	26,506
負債の部		
流動負債	6,703	8,867
リース債務	442	408
支払手形及び買掛金	2,131	3,682
未払法人税等	92	721
データセンター移転損失引当金	289	—
その他	3,749	4,056
固定負債	2,202	2,677
リース債務	1,135	1,460
退職給付引当金	849	1,019
その他	218	198
負債合計	8,906	11,545
純資産の部		
株主資本	16,037	14,929
資本金	1,367	1,367
資本剰余金	1,462	1,462
利益剰余金	13,207	12,100
その他の包括利益累計額	70	31
その他有価証券評価差額金	67	34
為替換算調整勘定	2	△2
少数株主持分	52	—
純資産合計	16,160	14,961
負債純資産合計	25,066	26,506

資産の部

資産合計は14億円減少し、250億円となりました。

■ 流動資産

大型システム開発案件の減少に伴い、売掛金が22億円減少しました。また、大型システムの開発が終了したことにより、仕掛品が7億円減少しました。一方、当期純利益が16億円あったこと等により、現金及び預金が21億円増加しております。

負債の部

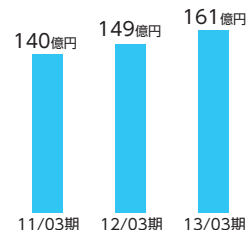
負債合計は26億円減少し、89億円となりました。

■ 流動負債

大型システム開発案件の減少に伴い外注に係る買掛金が15億円、未払法人税等が6億円減少しました。また、深川センターへの移転完了に伴いデータセンター移転損失引当金が2億円増加しております。

純資産の部

純資産合計は、11億円の増加となっております。増加要因は、当期純利益16億円の計上によるもの、減少要因は、剰余金より配当財源へ5億円割り当てたことによるものです。



連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	期別 当期 (2012年4月1日～ 2013年3月31日)	前期 (2011年4月1日～ 2012年3月31日)
売上高	29,290	32,604
売上原価	22,904	25,724
売上総利益	6,385	6,879
販売費及び一般管理費	3,660	3,469
営業利益	2,724	3,410
営業外収益	61	73
営業外費用	49	33
経常利益	2,736	3,450
特別利益	24	6
特別損失	14	271
税金等調整前当期純利益	2,746	3,186
法人税等	1,071	1,442
少数株主損益調整前当期純利益	1,674	1,743
当期純利益	1,674	1,743

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科目	期別 当期 (2012年4月1日～ 2013年3月31日)	前期 (2011年4月1日～ 2012年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,728	2,280
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,585	△2,154
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,001	△1,152
現金及び現金同等物に係る換算差額	△3	△1
現金及び現金同等物の増減額	2,137	△1,028
現金及び現金同等物の期首残高	5,351	6,379
現金及び現金同等物の期末残高	7,489	5,351

■ 売上高

売上高は292億円（前年比10%減）となりました。

HULFT*事業で代理店経由の製品販売が好調に推移しましたが、金融システム事業で大型開発案件が減少したこと等により減収となりました。

■ 営業利益、当期純利益

金融システム事業で「SAISOS*（サイソス）」等の情報処理サービス、HULFT事業で利益率の高い製品・保守販売が好調に推移したものの、流通サービスシステム事業で収益性の高い大型開発案件が減少したこと、BPO*事業で品質向上及び運営効率化のためにコストが増加したこと、旧データセンターの解約に伴う原状回復コストが発生したこと等により、営業利益は27億円（前年比20%減）、当期純利益は16億円（前年比4%減）となりました。

現金及び現金同等物（資金）は、前年度末より21億円増加し74億円となっております。

■ 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動により得られた資金は47億円となりました。税金等調整前当期純利益を27億円計上したこと、売上債権が23億円減少したことが主な要因です。

■ 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動に使用した資金は15億円となりました。データセンター移転に伴う設備投資に12億円、アプレッソ社の株式取得に9億円を支出しております。

■ 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動に使用した資金は10億円となりました。リース債務の返済に4億円、配当金の支払に5億円支出しております。

※「HULFT」は当社のファイル転送パッケージ製品です。

※「SAISOS」は当社のクラウド型ホスティングサービスです。

※BPOは、企業内の業務を代行するサービスです。当社では人事関連業務を受託しています。

→P14の用語解説をご覧ください。

セグメント別の状況

* 当社は主に製品サービス別および顧客業態別に4事業に分類し、報告セグメントとしております。

* 掲載されている4つのセグメントの合算額と全社の業績値は、別途「その他調整等」があるため一致いたしません。

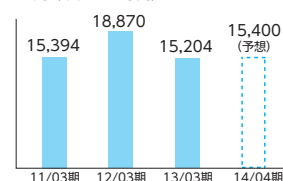
金融システム事業

売上 **152億円**
(前期比△19.4%)

利益 **10.5億円**
(前期比+1.8%)

- 大型システム開発案件が減少したことおよび新規顧客開拓に苦戦したことにより、売上が減少しております
- クラウド型ホスティングサービス「SAISOS※(サイソス)」等の情報処理サービスが堅調に推移したことにより、利益額は増加いたしました

▼ 売上高 (単位: 百万円)



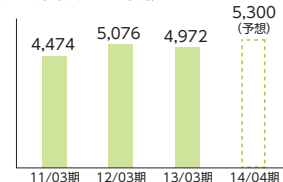
流通サービスシステム事業

売上 **49億円**
(前期比△2.1%)

利益 **1.5億円**
(前期比△61.5%)

- 新規顧客獲得や「SAISOS」のビジネス展開が進捗いたしました
- 大型システム開発案件および既存顧客向け情報処理サービスが減少いたしました
- 収益性の高い大型システム開発案件が減少したことにより、利益率が低下いたしました

▼ 売上高 (単位: 百万円)



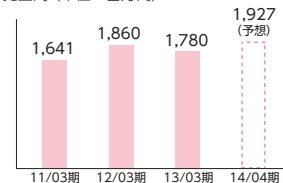
BPO事業

売上 **17億円**
(前期比△4.3%)

利益 **△2.6億円**
(前期比△2.8億円)

- 「Bulas※(ビューラス)」および「Bulas Payslip Mobile※(ビューラスペイスリップモバイル)」が堅調に推移いたしました
- 新規顧客開拓に苦戦し、初期導入に伴うシステム開発案件が減少いたしました
- 障害対応や品質を安定化させるためのコストが増加いたしました

▼ 売上高 (単位: 百万円)



HULFT事業

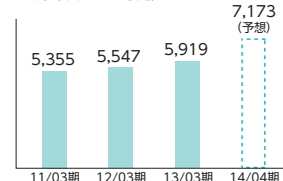
売上 **59億円**
(前期比+6.7%)

利益 **27.9億円**
(前期比+3.6%)

- 「HULFT※(ハルフト)」の累計出荷数は約152,000本となり、導入会社数は7,400社を超えました
- 利益率の高い製品販売及び保守販売が好調に推移しました

* アプレックス社の売上、利益はHULFT事業セグメントに分類しております。なお、2013年3月期の損益に与える影響はありません。

▼ 売上高 (単位: 百万円)



※「SAISOS」は当社のクラウド型ホスティングサービスです。

※「Bulas」は、BPO事業で提供している給与計算や勤怠管理のサービスです。

※「Bulas Payslip Mobile」は、インターネットを利用して社員への給与明細を配信するサービスです。

※「HULFT」は当社のファイル転送パッケージ製品です。

→P14の用語解説をご覧ください。

配当政策

当社では、収益の向上が株主の皆様への利益還元に直結する業績との連動性強化と、万一業績が悪化しても一定の配当水準を維持する安定配当の両立を図りたいと考えております。その考えのもと、利益配分に関しては以下の基本方針を掲げております。

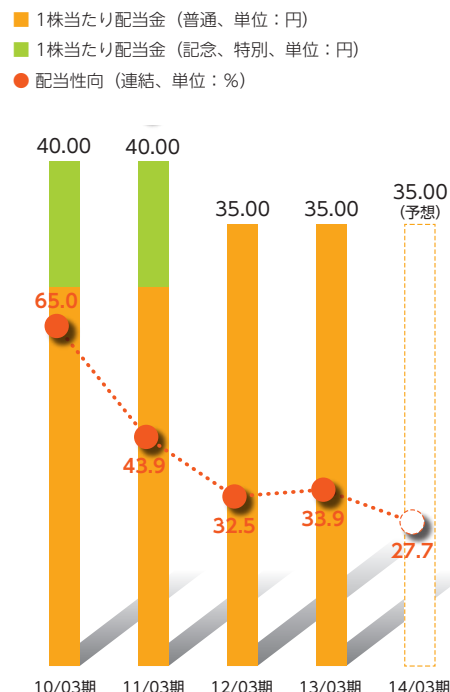
当社の配当に関する基本方針

- **業績との連動性強化**
 - ・連結当期純利益の3割前後を目安に配当を確保いたします。
- **安定配当**
 - ・万一の業績悪化時にも、1株当たり10円の配当金を維持するよう努めております。
- **中間配当について**
 - ・業績連動型の配当方針をとっているため、通期の業績が確定してから配当額を決定しておりましたが、より株主の皆様へ利益還元できるよう、前期より安定配当部分の10円を中間配当として実施いたしました。

配当性向の変化についての補足

- 2013年3月期は、利益水準、財務状況、株主の皆様への利益還元などを総合的に勘案し、年間の普通配当を1株当たり35円といたしました。
- 2011年3月期は、業績が好調であったことから、1株当たり10円の特別配当を実施いたしました。これにより、1株当たりの配当は普通配当を加えた40円となりました。
- 2010年3月期の配当性向が近年では非常に高いものとなっております。これは次の2つの要因によるものです。
 - ①2010年、創立40周年を迎えたことを記念し、1株当たり10円の記念配当を実施したこと。
 - ②2010年3月期は新センターへの投資に伴う特別損失によって、当期純利益が大幅に下がったものの、例年並の配当30円を維持したこと。

1株当たり配当金／配当性向の推移



当社の事業内容をより一層ご理解いただくために、当社の4つの事業をシリーズでご紹介しています。4回目となる今回は金融システム事業について、事業部のメンバーと宮野社長との座談会形式でご紹介します。



■ 大規模プロジェクトの実績が最大の強み

宮野：金融システム事業部は、株式会社クレディセゾン様(以下、クレディセゾン様)のシステム開発を40数年来にわたってご支援させていただいている事業であり、売上の的にも、スキルの的にも当社の根幹を担っています。現在進めているクレディセゾン様との共同基幹プロジェクトだけでなく、同社がこれまでに実施してきた大規模クレジットカードシステムの構築を経験し、完遂させたメンバーが数多く在籍していることも、国内でも有数の競争優位性の源となっています。

吉野：さらに、クレジットカードシステムと一口に言っても、申込み・審査・承認・カードの配送、店舗での認証・決済・利用計上、支払い明細の作成・送付、銀行口座からの自動引落としといった一連の流れがありますが、

当社は、基幹システム・周辺システムなどの開発から運用まで、すべての業務を網羅しており、ワンストップサービスを提供できるという点も大きな強みとなっています。

中畑：共同基幹プロジェクトは、まさに要となるシステムです。先ほどの一連の流れの中で、私が現在担当しているのは大量の利用データから請求額を算出して支払明細を作成し、銀行に請求データとして渡すところまでになります。クレジットカード事業の根幹をなすシステムであるだけに、目の前の業務だけでなく、システム完成後のことも視野に入れて進めることを心がけています。

菅野：私も、クレジットカードの周辺業務を担当していたことがあり、その時に得た業務知識を活かして、仕事の領域を広げることができました。私は今、損害保険会社のシステム統合プロジェクトに、お客様をご支援する立場で入っており、今夏のリリースに向け、現在、お客様側のテストフェーズまで進んでいます。新しいお客様、新しい文化、新しい仲間たちとの仕事は日々刺激も多く、非常にやりがいを感じています。

宮野：業務知識はお客様にカバーしていただきながら、経験を通じて積み重ねていくことができますが、実際に大規模プロジェクトをこなした経験者は業界内でも多くはなく、そうした経験はお客様にアピールできる強みにもなると思います。



■ 金融システム事業部にとって2014年3月期は脱皮の年

吉野：現在、事業部でもうひとつ力を入れているのが、クラウド型ホスティングサービス「SAISOS[®]（サイソス）」です。これは「所有から利用へ」を実現するインフラ基盤として、業種を問わず、全方位で販売を拡大していきます。

藤田：クレディセゾン様のオープンインフラのほとんどは、当社の「SAISOS」をご利用いただいています。クレジットカードのような24時間365日、止まらないことを要求される基幹業務を国内有数の規模で運営していますから、非常に信頼性の高いクラウドサービスになっていると自負しています。

宮野：現在「SAISOS」は、金融業向け、流通業向けの2本立てで展開していますが、お客様の業態に関わらず、どちらも適切な運用を提案できる営業がミッションと捉えています。

藤田：つまり、金融システム事業部では、お客様のインフラの最適化であり、「SAISOS」はその最適化を図るためのひとつの手段だと考えているわけです。今の時代、ほとんどの企業様が情報システムを導入していますが、過剰コスト・過剰品質となっている企業様も多々見受けられます。そうした過剰部分をうまくローコスト化しながら、お客様の事業における重要な基幹システムにその



資源を分配していただけるよう、全体の問題解決につながる最適化の提案を行っています。

吉野：2014年3月期は私たち金融システム事業部にとって、脱皮の年という位置付けです。クレディセゾン様の共同基幹という重要プロジェクトにしっかり対応していくだけでなく、証券や保険といった領域への外販を積極化するほか、金融向け「SAISOS」を拡販する。この3本柱でしっかり事業基盤の拡大を進めていきたいと考えています。

宮野：金融システム事業で培った経験をいかに活かし、価値向上を図っていくかは、さらなる成長に向けての最大のテーマになります。横溢なノウハウ、スキル、経験、そして実力を発揮し、大きな成長につなげてほしいと期待しています。



座談会メンバー（前列左から）

宮野 隆 代表取締役社長

吉野 真純 金融システム事業部事業部長
2012年4月、金融システム事業部の事業部長に就任。全社の半数以上のメンバーを有し、売上面、スキル面でも会社の屋台骨を担う金融システム事業部を牽引する。

中畑 昭子 金融システム事業部
システム一部システム二課課長
入社以来、一貫してクレジット系業務に従事。プログラマからスタートし、SEを経て、現在はプロジェクトマネージャーとして共同基幹プロジェクトを牽引。

菅野 理恵 金融システム事業部
システム五部システム一課

入社以来、金融システムの中でも周辺系と呼ばれるフロントエンド業務に従事。2012年より、損害保険の統合システム開発の現場リーダーとして活躍。

藤田 良 金融システム事業部
システム三部システム一課課長

流通サービスシステム事業部でSEとして活躍後、金融システムの世界へ。上海でオフショアのブリッジSEも経験。帰国後、「SAISOS」開発・拡販に従事。

過去のシリーズ特集は、当社ウェブサイト「個人投資家の皆様へ」のコーナーでご覧いただけます。
<http://home.saison.co.jp/ir/index.html>



当社が展開している4つの事業(金融システム事業、流通サービスシステム事業、小売業、レストラン)が、企業や皆様の日常生活の様々なシーンで活用

小売業のお店づくりに

たくさんの商品の管理や受発注など、お店づくりに欠かせないサービスシステムを提供しています。

スーパーで



デパートで



流通サービスシステム事業

皆様のお会計に

様々なシーンで利用されるクレジットカードの発行からご利用時の決済の仕組みまで幅広く提供しています。

レストランで



金融システム事業



ビスシステム事業、BPO*事業、HULFT*事業)の
されています。ここでは、その一例をご紹介します。

事業内容の詳細は、当社ウェブサイト「個人投資家の皆様
へ」のコーナーでご覧いただけます。
<http://home.saison.co.jp/ir/index.html>

企業の安全なデータのやり取りに

皆様が利用されるATMと銀行内システムのデータのやり
取りをはじめ、様々なデータを迅速につないでいます。



銀行のシステムで

HULFT事業

HULFT

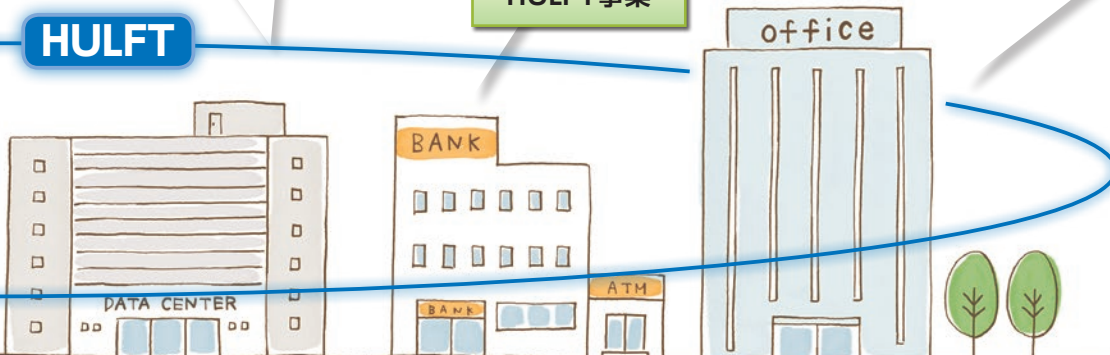
お給料計算や明細のお届けに

お給料明細のスマートフォンへのお届けや、給与、勤怠
管理の業務を代行しています。



オフィスで

BPO事業



*BPOは、企業内の業務を代行するサービスです。当社では人事関連業務を受託しています。
※[HULFT]は当社のファイル転送パッケージ製品です。 →P14の用語解説をご覧ください。

株主スクエア 第44期上半期報告書「株主様アンケート」集計結果

第44期上半期報告書ご送付の際に実施いたしました「株主様アンケート」でも、前回を上回る多くの株主様からご回答をいただきました。厚くお礼申し上げます。ここではアンケートの調査結果（抜粋）をご報告するとともに、代表的なご意見・ご要望をご紹介します。

アンケート調査結果（回答数……1,415件 回答率……56.0%）

当社株式の保有期間

1年未満	48.5%
1～2年未満	21.4%
2～3年未満	8.8%
3年以上	20.8%

今後の当社株式保有のご予定

	(複数回答)
1年以上継続して保有	76.2%
買い増し	16.1%
1年以内に売却（一部または全部）	0.8%
未定	9.6%

当社株をお知りになったきっかけは何ですか。

	(複数回答)
回答が多かった5項目	
1. インターネット検索	64.0%
2. 株式専門誌	15.9%
3. 知人の紹介	11.7%
4. 新聞	5.9%
5. その他	4.2%

第44期上半期報告書で興味を持たれた項目

	(複数回答)
回答が多かった5項目	
1. 配当政策	51.4%
2. 事業紹介	35.8%
3. 社長メッセージ	27.7%
4. 財務情報	21.7%
5. セグメント別の状況	21.2%

今後の当社株式保有のご予定では「1年以上継続して保有」「買い増し」で全体の92%となりました。「当社株をお知りになったきっかけ」については「インターネット検索」が多数を占めました。「第44期上半期報告書で興味を持たれた項目」については、「配当政策」が51%と過半数を占め、株主還元に対する関心の高さがうかがえます。当社では、今後も株主の皆様にも末永くご愛顧いただけるよう努めてまいります。

株主の皆様からのご意見・ご要望へのご回答

- ◆ 今後の成長戦略や方針を知りたい
- ◆ 中期の経営計画について内容を知りたい
- ◆ 事業の拡大計画を知りたい

トップインタビュー(P.1～)で事業の全般に触れています。

- ◆ 報告書の文は専門用語、カタカナ語を多用しているので、理解しにくい

報告書内に当社もしくは業界特有の単語があった時に参照できるよう、用語解説を一か所に集約しました(P14)。

- ◆ HULFT事業の今後について知りたい

トピックス(P.13)でHULFT事業の今後の成長のためのアライアンスへの取り組みをご紹介します。

- ◆ もっと社員の声を聴きたい、社員の顔を見たい

シリーズ特集(P.7～)で、金融システム事業部のメンバーが登場しています。

- ◆ 今後の配当について知りたい

連結当期純利益の3割前後を(年間)配当の目安としています。詳細は配当(P.6)をご覧ください。



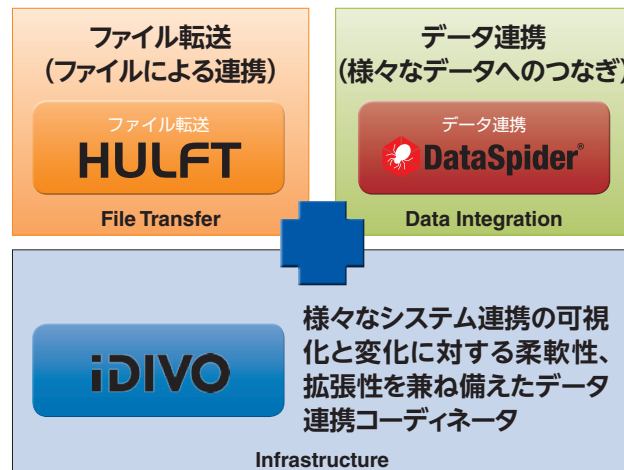
皆様からのご意見を踏まえ、よりよい報告書を作成してまいりますので、各ページを是非ご覧ください。

アンケートはがきを同封しております。2013年8月末日までにご回答いただいた皆様には、Quoカード500円分を進呈いたします。今後も株主の皆様との対話を重視し、いただきました貴重なご意見をIR活動(投資家向け広報活動)に活かしていきたいと考えておりますので、ご協力のほど、お願い申し上げます。

◆ 株式会社アプレッソと資本提携 ◆

当社は、アプレッソ社の発行済み株式の91.4%※を取得して連結子会社とし、グループの一員として迎え入れました。

アプレッソ社は2000年創業の、データ連携ソフトウェアの開発・販売・サポートを手掛ける企業です。主力パッケージ製品「DataSpider（データスパイダー）」は、システム間のデータを連携させる“EAI※”というソフトウェア市場において、国内トップグループに位置している有力製品です。当社とは、これまでも「HULFT※（ハルフト）」と「DataSpider」の連携を図るため、開発、販売及び営業面において、協力体制を築いてまいりました。



この度の資本提携の目的は、データ連携市場において、国内2番手グループであるアプレッソ社とHULFT事業との協力体制をさらに強化し、迅速なシェア拡大を図ることにあります。今後は、製品面では両社の強みを生かした新たな商材の創出を図り、営業面では代理店政策の一元化や海外展開なども見据えた相互協力を進展させてまいります。

今後の当社HULFT事業とアプレッソ社のシナジー発揮にご期待ください。



株式会社アプレッソ 会社概要

資本金：2億6700万円

所在地：東京都文京区

Webサイト：<http://www.appresso.com/>

事業内容：データ連携ソフトウェア「DataSpider」等の開発・販売・サポートを中核とするソフトウェアパッケージ事業

※4月30日現在の出資比率は96.84%です。

※EAIとは、Enterprise Application Integrationの略で、企業内の多様なシステムを連携させ、より効率的になるよう統合する技術です。

※「HULFT」は当社のファイル転送パッケージ製品です。

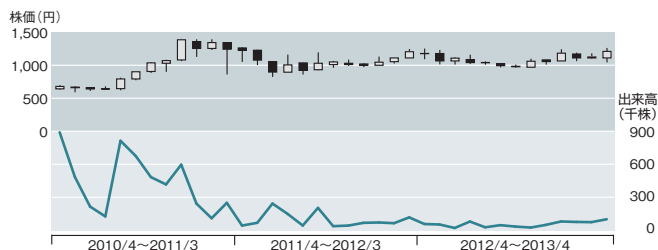
株式の状況

発行可能株式総数 60,000,000株
発行済株式の総数 16,200,000株
株主数 3,834名

大株主(上位10名)

株主名	当社への出資状況	
	持株数 (千株)	持株比率 (%)
株式会社クレディセゾン	7,588	46.84
ロイヤルバンクオブカナダトラスト カンパニー(ケイマン)リミテッド	4,488	27.71
セゾン情報システムズ社員持株会	603	3.72
株式会社インテリジェントウェイブ	500	3.09
大日本印刷株式会社	308	1.90
有限会社福田製作所	200	1.23
株式会社みずほ銀行	196	1.21
株式会社三菱東京UFJ銀行	80	0.49
富士通株式会社	80	0.49
協和青果株式会社	67	0.41

株価・売買高の推移



所有者別分布状況

株式分布状況

株主	%	千株
金融機関	2.85	462
証券会社	0.25	41
その他の国内法人	54.16	8,776
外国法人等	28.63	4,639
個人その他	14.08	2,282

株主数分布状況

株主	%	名
金融機関	0.26	10
証券会社	0.42	16
その他の国内法人	0.68	26
外国法人等	1.04	40
個人その他	97.60	3,742

◇用語解説 ～よく使われる用語をピックアップしました～

BPO (ビーピーオー)	Business Process Outsourcingの略で、企業が自社の業務処理を外部に委託することを指します。当社では人事関連業務を受託しています。
Bulas (ビューラス)	BPO事業で提供している、給与計算や勤怠管理のサービスです。
Bulas Payslip Mobile (ビューラスペイスリップモバイル)	インターネット経由で給与明細を社員に配信するサービスです。
HULFT (ハルフト)	システム間でデータをやり取りする際のファイル転送を実行するパッケージ製品です。WindowsやUNIX (ユニックス) といった、異なるプラットフォーム間でもデータのやり取りを可能にしています。
SAISOS (サイソス)	当社が提供するクラウド型ホスティングサービスです。お客様のデータ等を当社でお預かりするため、お客様は自前の設備を持つことなく、サービスを提供することができます。

会社概要

商 号 株式会社セゾン情報システムズ
SAISON INFORMATION SYSTEMS CO.,LTD.
設立年月日 1970年9月1日
資 本 金 13億6768万7500円
従 業 員 数 1,223名(連結)、769名(単体)
本店所在地 東京都豊島区東池袋三丁目1番1号
TEL:03(3988)2020(代表)

役員構成

代表取締役会長	横	山	三	雄
代表取締役社長	宮	野		隆
取 締 役	野	津	浩	生
取 締 役	西	川	信	次
取 締 役	瀧	澤		靖
取 締 役	水	上	龍	太
取 締 役	赤	木		修
取 締 役	土	橋	眞	吾
取 締 役	田	中	順	一
取 締 役	水	江	司	二
取締役(非常勤)	安	達	一	彦*
取締役(非常勤)	川	野	忠	明*
監 査 役	菅	崎		悟*
監 査 役	北	條	慎	治*
監査役(非常勤)	三	木		茂*
監査役(非常勤)	森	信		等*

* 社外取締役、社外監査役

関係会社の状況

株式会社フェス
資本金 : 6,000万円
出資比率 : 100%
事業内容 : 情報処理サービス

世存信息技术(上海)有限公司
資本金 : 6,000万円
出資比率 : 100%
事業内容 : ソフトウェア開発
パッケージ販売

株式会社アプレッソ
資本金 : 2億6,700万円
出資比率 : 91.4%
事業内容 : ソフトウェアパッケージの開発、販売、サポート

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	3月31日から3ヶ月以内
配当金受領株主確定日	3月31日及び中間配当を行う場合は 9月30日
単 元 株 式 数	100株
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号
同事務取扱場所	みずほ信託銀行株式会社
〔郵便物送付先〕	〒168-8507
〔電話照会先〕	東京都杉並区和泉二丁目8番4号
	みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
	TEL : 0120-288-324 (フリーダイヤル)



株式会社 セゾン情報システムズ

<http://home.saison.co.jp/>



復興特別所得税に関するご案内

「復興財源確保法」(略称)の施行により、配当等に係る所得税に対し、2013年1月1日から2037年12月31日まで、復興特別所得税として所得税額×2.1%が追加課税されることとなりますのでお知らせいたします。

	2013年1月1日～ 2013年12月31日	2014年1月1日～ 2037年12月31日
所得税	7%	15% (※)
復興特別所得税	0.147%	0.315%
住民税	3%	5% (※)

※2013年12月31日をもって軽減税率の適用終了が予定されております。